Season in the CUDO

会員のみなさまへ

2018 春

特集：消防採用時色覚検査実施状況の実態初の全国調査

色覚が採用に影響する 46.6% 影響しない 48.2%

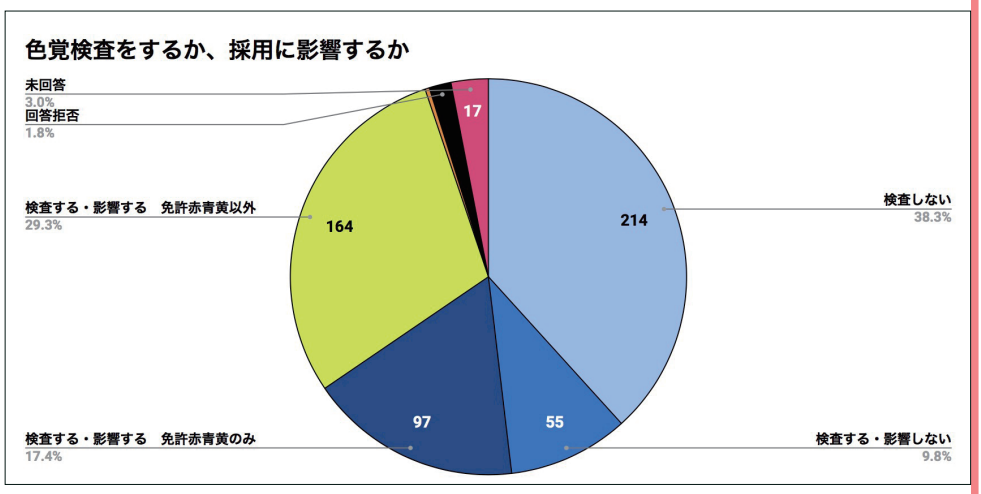
2017 年冬号でも触れた消防採用時色覚検査調査について、今号では内容を中心にご紹介します。

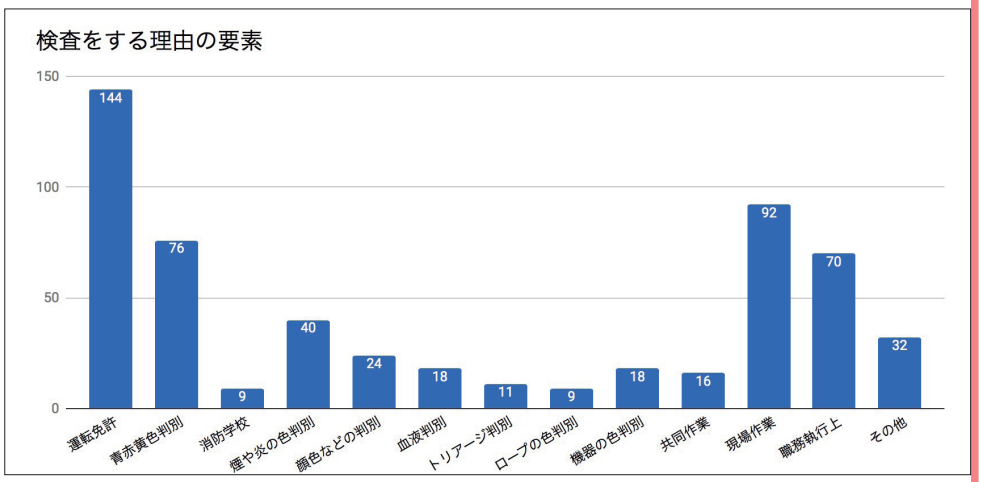
調査は超党派の地方議員・国会議員、学生、カラーユニバーサルデザイン機構（ＣＵＤＯ）の関連団体などで構成される 「カラーユニバーサルデザイン推進ネットワーク」（CUDN）が行いました。

調査結果の「検査する理由」で突出しているのが「運転免許 144」と「赤青黄色判別 76」の2つでした。次いで現場作業と職務執行上ですがこの2つは抽象的です。赤青黄色判別は運転免許取得と同意義とみなすと、それ以外の理由「煙や炎の色判別」「顔や血液の色判別」等は全体の３分の１以下になります。そしてこの煙や炎、顔色や血液の判別は現実におこなわれているのか、照明条件が一定でもない環境下でＣ型（一般型）色覚者は色を精確に判別できるのか、判別するときの指標が存在するのでしょうか。そもそも色弱者でも医師になれるわけですから救急隊員にＣ型色覚を求めること自体が合理的とは言い難いのです。

逆に色覚検査を求めない理由の中に「運転免許が取得できるので」を挙げた自治体も 22 ありました。これはその自治体が職務に求められる色覚は運転免許取得程度でよいことと、色弱者も運転免許を取得できることを知っているもので、逆に検査する理由に運転免許が必要だからとしたものは、色弱者が運転免許を取得できるのを知らないことを示すものかもしれません。自治体間で差があるのです。

「色を間違えたり区別がつかないことで本人や周囲が困る」という抽象論だけで特定の職種から色弱者は排除されてきましたが、今回の調査により具体的な作業への支障と解決方法への検討が始まったといえます。ＣＵＤ導入や色名を知らせるアプリ等ツールの活用、または周囲の理解を得るため色彩色覚の知識を広める等、どんな職場でも色覚の多様性を排除するのではなく、受入れるための解決策を探すことが共生社会を実現する一歩ではないでしょうか。（田中）





CUD インタビュー

株式会社ソフト９９コーポレーション

企画開発本部　商品開発部
小野寺 篤　様

聞き手　ク）CUDO 話し手　小）小野寺薫さん

ク）カー用品ではワックス・フクピカ・ガラコ・タッチペンそして最近はメガネ曇り止めなどで身近なソフト９９さんですがこのたび発売された「チョット塗りペイント カラーバリアフリー」について教えてください。

小）会社の商品は「世の中の困り事を解消したい」というスタンスでして、最近でしたら花粉症用のマスクとメガネというのがありますが、このメガネがよく曇って困る方がいます。当社では車の窓ガラスの内側が曇らないようにする商品を約２０年前から作っておりましてそうした知見でメガネを曇らないようにする製品を開発して提供しています。メガネケアという曇り止めの製品でして、メガネと言えば「ものを見る」という分野でして、それについて調べていたときにバリアフリー展で「みやすい色」というものを見つけたのです。色と言えば当社の本業として自動車の補修用の塗料を開発製造販売しており、生活のサポートができる「みやすい色」というものを製品化できないかということで、インターネットで調べ、CUDO をみつけて相談したのが最初でした。

ク）ご相談というと無料説明会でしょうか

小）ネットで CUD 検証の無料相談会を見つけて参加しました。その内容は正直言って初めて聞くような話が多くて参考になりました。これは当社でサポートできるものがあるのではないかという感触を得ました。しかしその時はまだ様々な自社商品のパッケージを見分けやすい配色にと考えておりました。

　ところが家庭用品としては「ちょっと塗りペイント」というものが有りました。元々は車用の簡便な補修用のタッチペンがあります。この車用のタッチペンを家庭用にしたタッチペンです。家の外や内側の色々な塗装のハガレなどを、キャップを開けて筆を出して塗るだけ。塗り終わったらそのままキャップについた筆をしまうだけというものです。ちょうど社内でこの商品を強化してゆこうという話がありまして、それならカラーユニバーサルデザインを取り入れた新製品ができるのではないかと企画し会議でゴーサインが出ました。それならカラーユニバーサルデザイン配色のステッカーも出してみてはと社長が後押ししていただきが２系統のラインナップとなりました。

ク）ステッカーの方はどんな風に使うものでしょうか

小）こちらも本来は自動車の簡便な補修用として使っているものですが、ドアの手すりなどに目立つようなポイントとして使われています。自社内では階段の段鼻や手すりが背景に溶けて見分けにくいので使っています。自動車用なので耐候性や耐水性が非常に高く屋外で使っていただいても大丈夫です。

ク）どうやって色を決めてゆきましたか。

小）我々の方はどういう色が良いかということについて知見がありませんので CUD 推奨配色セットを参考にさせていただきながら、塗料のメーカーとも話し合い、CUDO 事務局と相談しながら色を絞り込み、試作品につなげてゆきました。今回良かったのは日本塗料工業会が見本帳で開示されていたので助かりました。塗料を検討し製品サンプルとしてつくり、社内にもいる色弱者に見てもらいました。そして第三者検証機関である CUDO に依頼し認証を受けました。一つでだいたい A4 二枚を塗ることができます。

ク）この製品の特徴はどういうところでしょうか

小）もともと、使うために他の道具は要らないということで、ペンキを塗ろうとすると刷毛とかお皿とか筆が必要で、使い終わったら洗い液で洗って乾かして保管してといったことが不要です。これ一つあれば蓋を開けて塗って蓋を閉めるだけ。保管も使わなくなった後の処分も簡単です。UD 全般に言えることですが、作ってしまったバリアを取るのに手間がかかっていてはなかなか改善できません。この製品を使っていた台立て、CUD を実現できるといいですね。みなさんに使って良かったなと言っていただきたい製品です。

「チョット塗りペイント カラーバリアフリー」を使ってみたいという方がおられましたら、使用したいものと使いたい色、ペイントかステッカー化の区別を書いて CUDO 事務所に連絡をしていただければ１０名様にサンプル提供させていただきます。

ク）ありがとうございました。

会員や皆様からのCUDや色覚に関わるお話を掲載します。ご寄稿お待ちしております。(原稿365文字程度)

電子機器製品の選定について　会員の声

私は電気器機の組立販売を行う会社に勤めています。ある日、発注元のA社で打ち合わせをした時のこと。電気器機に組み込むLEDランプについて、「B社の製品を使って欲しい」との要望を受けました。

本来どのメーカの製品を使うかは組み立てを行う当社の判断で決めることなので理由を尋ねると、B社の製品がCUD認定を受けているからとのこと。CUD認定品を積極的に採用するのがA社の方針であるとも話していました。自分の目の前でCUD製品が選ばれたのはこれが初めてですが、近い将来A社のような企業・団体が増え、CUD認定を受けていることが採用の必須条件となる。そんな日がもうそこまで来ている予感がする出来事でした。

会社員　Sさん（男性・色覚タイプD型）

第3回 連載コラム 教えて！色弱のお医者さん

東京慈恵医科大学
解剖学講座教授
岡部正隆

桜の開花もそろそろ、間も無く新学期です。大学の教員をやっていると「4月から担当する新しい学部2年生はどんな学生だろうか」「留年した学生をどうやって励まそうか」とか考えますが、桜の花を思い浮かべると、新学期に向けてワクワクしていた小学生の頃のことを思い出します。

私は強度のP型色覚ですが、小学校で何か困ったことはなかったかと問われることがよくあります。嫌な経験はほとんど記憶にありません。何もなかったという訳ではないのですが、一つ一つの出来事がネガティブなイメージと結びつかなかったからかもしれません。これは私の性格に依存するところもあるでしょうが、母が私の色弱のことを学校に伝えていてくれたことと無関係ではありません。

私の母は小学生の頃に父親を亡くしています。明治の生まれでしたが貿易の仕事をしていたからか、いつもカッコよくスーツを着こなしていた憧れの自慢の父親だったそうです。このセンスの良い父親は、色弱でした。遺伝学的に考えれば私と同じP型強度。自分が保因者であることを知っていた母は、3歳の私が色分けされたお菓子を見間違えたことで私が色弱であることに気がつきます。しかし面白いもので、センスの良い父親が同じ色弱であったことを考えると、「この子は大丈夫」と確信したそうです。こういう母の性格もP型遺伝子と一緒に私に遺伝しているようです。ただ、楽観的に思っているからと言って何もしなかったわけではありませんでした。小学校に進学すると、担任の先生、図工の先生、理科の先生に、私が色弱であることを伝えていました。問題が生じた時に配慮してもらうためです。理系学部への進学などでも制限があった時代ですから、息子が色弱であると学校に伝えるにはそれなりの勇気が必要だったかもしれませんが、亡き父が背中を押してくれたのかもしれません。

小学校では私に色弱のことであえて話かけてくる先生はいませんでした。しかしある時、図工の時間に校庭で写生をしていた時でしたが、私の絵の具の色使いに同級生が騒ぎ出したことがありました。同級生が集まってきて、私の絵の木の幹の色が変だと騒ぎ立てるのです。なんの騒ぎだと図工の先生が飛んできました。「あんたたち、教室に戻りなさい」。教室に入ると先生はみんなに色弱の話を始めました。何をどう説明してくれたかその詳細は覚えていませんが、皆が時折窓際に座っている私を見ながら先生の話に耳を傾けていました。同級生たちは色弱ということに興味を持ったようで、私に色々聞いてきました。先ほどの出来事に謝ってきた子もいました。この日をきっかけに、色に関する問題が生じた時には「これわかる？」と同級生たちが気遣ってくれるようになり、私もわからない時に聞けるようになりました。そんな学校生活でしたから、嫌な思い出を残すこともなく今に至っているのだろうと思います。

多様性への配慮を謳う風潮の中、学校関係者から色弱の児童生徒への配慮や指導のあり方に関して意見を求められます。色弱はその児童生徒の個性のごく一部ですし、社会的背景によっても対応は異なってくるはずですから、一律にこうしたらベストというものではありません。でも、問題の本質を知ることで、何をしたらいいのかが見えてきます。これは、先生も生徒も、大人も子どもも、家族も本人も同じことです。まずは知ることから始まります。知る機会を作ることが重要なのだと思います。

かっくんの色弱物語

CUDO 個人賛助会員 (会社員 S さん) による 4 コマ漫画です。今号は 2 話掲載させて頂きました。

3

賛助会員へのお知らせ

毎月第 3 土曜日は賛助会員主催で『CUD 友の会』を開催しております。詳しくは当機構ホームページをご覧ください。

今後のイベント予定

4 月 21 日	**CUD 友の会**
5 月 27 日	**お母さんの茶和会**
5 月 18 日	**色弱のお医者さんの講演（大阪開催予定）岡部正隆**
5 月 19 日	**CUD 友の会**
6 月 16 日	**CUD 友の会**

※予定は変更となることがあります。
　最新の情報、イベントの詳細は決定次第、
　当機構ホームページでご覧いただけます。

イベント報告

「CUD 検証　研修会」を開催しました！

　CUDO による「CUD 検証　研修会」を開催（2 月 24 日：土）。17 名が参加されました。今回は冊子、カレンダーなど印刷物の CUD 検証の基本を抑えた後、3 名 1 グループ（色覚型 C 型・P 型・D 型）に分かれ検証を体験。配色の改善提案では、C 型・P 型・D 型が見分けられる色をみつける作業を行い、CUD 検証が当事者による検証を重要視することの理解を深めました。CUDO では、今後も CUD 検証の研修会を開催していく予定です。

■参加された方の感想（一部省略）

・先日の研修会は、勉強になったと思います。色弱当事者の自分としては気がついたところを見たままに言う役割でやや恐縮です。進行役の C 型の方は経験やスキルが必要なのだろうなと感心、頭が下がるおもいです。障がい者の集まりというと、当事者だけが集まって、問題を共有したり、愚痴を言ってみたり、という集まりになりがち、と思いますが、先日の研修にも当事者ではない方々が多く参加されていてありがたいと思いました。（Y さん）

編集後記

色覚の多様性が理解されていないことで起こっている数々の問題を解決するために CUDO は活動しています。モノの配色をみんなにみやすい色に変えるコトや、色の名前が片方の分化であるために起きているコトの解決もその一つです。「Color Scheme for all」すべてのものが CUD になる世界はそう遠くないように感じます。

★皆様からの投稿ページがあります。CUD や色弱に関する投稿を当機構までお送りください。(原稿 365 文字程度)
siga@gmail.com 伊賀星史　まで

SEASON IN THE CUDO No.20 冬号 2018 年 3 月 16 日発行
発行元：NPO 法人カラーユニバーサルデザイン機構
〒 101-0021
東京都千代田区外神田２丁目１４番１０号　第２電波ビル７階
TEL/FAX：03-6206-0678
発行人：武者廣平